

はじめに

今日、我が国において、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等が進む中、若者の職業人としての基本的な能力の低下や精神的・社会的な自立の遅れ等が指摘されています。

このため、学校においては、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することを通して、キャリア発達を促す「キャリア教育」の推進が求められています。

本県学校におけるキャリア教育の現状としては、県内外の調査結果から、子供たちの職業に対する理解不足、将来の夢に向かって努力する気持ちや自己肯定感の低下、学校におけるキャリア教育を推進するための組織体制が整っていない等様々な課題が見られます。

県教育委員会といたしまして、これらの課題を解決し、本県学校におけるキャリア教育を推進するための指針づくりを目的として、学校関係者・経済団体・有識者等による「徳島県キャリア教育推進協議会」を設置し、協議のもと、幼稚園教育から発達段階に応じて系統的・体系的にキャリア教育を推進するための指針となる「徳島県キャリア教育推進指針」を策定いたしました。

本指針では、本県が目指すべきキャリア教育として、子供たちが夢や希望を持ち、主体的に未来を切り拓き、将来社会人や職業人として自立することができる力の育成を図るとともに、キャリア教育で身に付けさせたい能力・態度として「かかわる力」「みつめる力」「すすむ力」「えがく力」の4つの力を示しています。

また、学校におけるキャリア教育を推進するための方策として、教育課程への位置付けをはじめとし、学校間や学校・地域間の連携の必要性、体験的な学習活動の推進を示すとともに、教育活動全体を通して体系的に取り組むために、本県独自の考え方として、「R（リサーチ）」を加えた「R-PDCA」サイクルによる推進を示しています。

各学校におかれましては、本指針を十分に活用し、学校長のリーダーシップのもと、学校全体でキャリア教育についての共通理解を図りながら、推進していただくとともに、学校・家庭・地域・経済団体等が一体となったキャリア教育の推進をこれまで以上にお願いいたします。

最後になりましたが、本指針の作成に御尽力を頂きました徳島県キャリア教育推進協議会の委員の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成26年3月

徳島県教育委員会

教育長 佐野 義行

目 次

はじめに

ページ

I 本県におけるキャリア教育の課題	1
-------------------	---

II 本県におけるキャリア教育の考え方

1 本県が目指すキャリア教育	2
2 本県におけるキャリア教育で主に身に付けたい能力・態度	2

III キャリア教育推進方策

1 学校におけるキャリア教育の推進のために	4
2 発達段階に応じたキャリア教育	6

IV キャリア教育の充実に向けて

1 校内の体制づくり	8
2 幼・小・中・高の学校間連携（縦の連携）	14
3 学校・地域間連携（横の連携）	16
4 体験的な学習活動の充実	21

キャリア教育に関する参考資料

1 キャリア教育とは	24
2 本県におけるキャリア教育の現状	27
3 本県キャリア教育の全体計画（例）	31
4 学校で活用できる資料・冊子	32

平成25年度「徳島県キャリア教育推進協議会」委員一覧

I 本県におけるキャリア教育の課題

我が国は、現在、グローバル化・情報化・少子高齢化など様々な課題に直面しており、本県においても同様な課題があります。また、子供・若者の「社会的・職業的自立」や「学校から社会・職業への移行」に向けて様々な課題が見られる中で、学校におけるキャリア教育の一層の推進が求められています。

本県においては、キャリア教育の推進に向け、これまでも「キャリア教育の推進に向けて」の冊子の作成・配布など様々な取組を行ってきました。

平成25年3月には、社会の変化や教育の課題に一層適切に対応していく必要から「徳島県教育振興計画（第2期）～阿波っ子みらい教育プラン～」が策定され、その施策の中で、キャリア教育の推進が挙げられています。

平成25年3月に本県学校におけるキャリア教育の現状と課題を把握するために、県内小・中・高等学校において「キャリア教育に関するアンケート調査」を実施し、全国調査との比較により、実態把握を行い、今後のキャリア教育を推進するための課題を分析しました。

このアンケート調査結果と、「平成25年度全国学力・学習状況調査学校質問紙」、「平成24年度生徒の意識等に関わる調査（徳島県）」、「平成24年度徳島県高等学校におけるインターンシップ実施状況」、「平成24年度特別支援学校における就業体験人数及び事業所への訪問回数」、「新規高等学校卒業就職者の離職率の推移（全国）」（厚生労働省「新規学校卒業者の就職離職状況調査結果」）から、本県のキャリア教育を推進する上で、次のことが課題として挙げられます。

- 課題1 子供たちの働くことへの意欲は高いが、職業に対する理解が不十分である
- 課題2 子供たちに将来の夢や目標に向かって努力する気持ちや、課題に対してたくましく対応しようとする意識が低い
- 課題3 子供たちの地域や社会の出来事への関心や自己肯定感が低い
- 課題4 学校におけるキャリア教育を推進するための組織体制が整っていない
- 課題5 体験的な学習活動を実施するための受入先の確保が必要である
- 課題6 本県における新規高等学校卒業就職者の卒業後3年以内の離職率は全国水準を上回っている

（全国的な傾向として、仕事が向いていない、職場での人間関係等が離職の主な原因として挙げられている。

「平成21年3月新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」

これらの課題を踏まえながら、今後は幼稚園教育から、発達段階に応じて系統的・体系的に学校・家庭・社会全体で、子供たちの社会的・職業的自立に向けた力を育成するとともに、変化の激しい社会を生き抜く力の育成が必要であり、キャリア教育の一層の推進が重要となります。

Ⅱ 本県におけるキャリア教育の考え方

1 本県が目指すキャリア教育

これらの課題を解決していくためには、これまでにない新たな視点や発想に基づく価値を創造し、社会の各分野を牽引していく人づくりが重要となってきます。

我が国の子供たちの課題として、将来就きたい仕事や自分の将来のために学習を行う意識が低いことが国内外の調査から明らかになっており、学校教育においては子供たちが自らの将来に対する夢や憧れを持ち、将来就きたい仕事等を描きながら、学習の意義を認識し、意欲的に学習に取り組もうとする気持ちや態度の育成が重要となってきます。

本県では、中央教育審議会の答申である「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（以下「答申」という）や、「徳島県教育振興計画（第2期）～阿波っ子みらい教育プラン～」に基づき、本県児童生徒の実態や地域性を踏まえながら、次のようなキャリア教育を推進します。

夢や希望に向かってチャレンジし、社会の一員として、ともに支え合い、ふるさと徳島に愛着と誇りを持つ人を育むとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力・態度を培うことを通して、キャリア発達を促す教育

2 本県におけるキャリア教育で主に身に付けたい能力・態度

キャリア教育を推進するために、県内外のアンケート調査等に基づく課題から、本県では、「**かかわる力**」「**みつめる力**」「**すすむ力**」「**えがく力**」の4つの力を育成すべき能力・態度とし、本県の子供たちが主体的に未来を切り拓き、将来、社会人・職業人として自立することができる力の育成を図る必要があります。

これらの4つの力は、「答申」にある「基礎的・汎用的能力」に対応したものであり、それぞれ独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にあります。そして、これらの力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、児童生徒の実態によって異なりますが、工夫された教育活動により育成することが必要です。

また、現代社会では情報の力が社会を動かす重要な要素となっています。4つの力を育む上でも、情報機器を活用した情報収集や情報探索が必要であり、幅広く情報を活用することにより、自己の進路や生き方の選択に生かすことができます。本県においては、「かかわる力」「みつめる力」「すすむ力」「えがく力」の育成を推進するためにも変化の激しい社会の中で必要とされる、情報を活用することができる能力（**情報リテラシー**）の育成が重要です。

【 】内は、主に対応する**基礎的・汎用的能力**

円滑な人間関係を形成するために

かかわる力

【人間関係形成・社会形成能力】

多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

本県においては、他者や様々な集団、社会と**かかわる力**を育むことにより、他者と協力・協働して今後の社会を形成していくために必要なコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップ等の育成を図る

自尊感情を高め、主体的に進路を切り拓く力の育成のために

みつめる力

【自己理解・自己管理能力】

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

本県においては、自分自身を客観的・肯定的に**みつめる力**を育むことにより、キャリア形成において基盤となる自己理解能力や主体性、忍耐力等の育成を図る

物事に主体的に取り組むための力の育成のために

すすむ力

【課題対応能力】

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

本県においては、物事を解決して前に進めていく**すすむ力**を育成することにより、様々な課題に対応し、解決していくために必要な情報活用能力や計画立案力・実行力等の育成を図る

将来の在るべき姿を想像し、夢や希望を育むために

えがく力

【キャリアプランニング能力】

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

本県においては、社会人・職業人として生きていくために将来の生き方を**えがく力**を育成することにより、学ぶことや働くことへの理解や、将来設計力等の育成を図る

Ⅲ キャリア教育推進方策

1 学校におけるキャリア教育の推進のために

キャリア教育には、学習指導要領の理念である「生きる力」の育成とともに、子供たちが変化の激しい社会において、力強く生きていくために必要な資質や能力を育てていくという重要な役割が期待されています。

学校においてキャリア教育を推進していくためには、子供たち一人一人のキャリアが多様な側面を持ちながら段階的に発達していくことを認識し、キャリア教育を学校教育の中において、どのように位置付け、推進していくかについて明確な方針を打ち出すことが必要となります。

さらに、キャリア教育における担当者の配置やキャリア教育推進委員会の設置等、キャリア教育を推進するための組織体制の構築も必要です。

(1) 教育方針の明確化と教育課程への位置付けを行いましょ

子供たちに必要とされる能力や態度を意図的・継続的に育成するためには、キャリア教育を体系的に推進する必要があります。そのためには、学校の特色や教育目標に基づいて、教育課程に明確に位置付けることが必要であり、キャリア教育の全体計画やそれを具現化するための年間指導計画を作成することが必要となります。

全体計画を作成することによる効果

- 学校全体で計画性と体系性を持ったキャリア教育を展開することにつながる
- 学校におけるキャリア教育の取組について、家庭や県民への情報発信となる

年間指導計画を作成することによる効果

- 発達の段階に応じて学年を通してキャリア発達を支援することができる
- 発達の段階に応じて身に付けさせたい能力や態度の到達目標が明確になる
- 年間における活動がどのような能力や態度の育成を図ろうとするものか明確になる
- 各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学年の取組等がどのように関連付けられているか明確になる

(2) 人間関係形成等のための場や機会を設定しましょ

豊かな人間関係を築くことは、社会とのかかわりの中で生活し、仕事をしていく上では基礎となるものであり、円滑な人間関係を形成するために必要な「かかわる力」の育成は、本県で重視している能力・態度です。

この能力・態度は、学校教育の中で、長い年月をかけて育まれるものであり、各学校においては、様々な教育活動において積極的に身に付けるための場や機会を設定する必要があります。

これらの場や機会を設定するに当たっては、多様で幅広い他者とのかかわりが不可欠であり、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校との学校種を越えた連携（縦の連携）や、家庭・地域・企業・就労支援機関等との連携（横の

連携）を図ることも重要となります。

連携の効果としては、「かかわる力」の育成はもとより、縦の連携により、教員が異校種の活動について理解し、体系的なキャリア教育を推進することにつながります。

また、横の連携を図ることで、家庭からの理解や協力を得やすくなるとともに、地域の人材を活用した実践（講演・出前授業等）により、職業への理解や経済・社会の仕組み、社会人・職業人として必要な知識や働くことの意義を理解させることができ、現実の社会の厳しさも含めて、子供たちが将来を実感あるものとして捉えることができる「みつめる力」の育成の機会にもなります。

（３）体験的な学習活動を効果的に活用しましょう

学校において「すすむ力」、「えがく力」を育成するためには、学校内における教育活動だけでなく、社会や職業にかかわる様々な活動を通して、新たな気づきや発見をさせるための体験的な学習活動を充実させていくことも必要です。体験的な学習活動の一環である職場見学・職場体験・就業体験（インターンシップ）を実施することにより、勤労観・職業観の芽生えや、働くことや学ぶことへの意欲の向上など様々な効果が期待されています。

学習指導要領では、小学校では集団宿泊活動、中学校では職場体験活動、高等学校では奉仕活動や就業体験活動を重点的に推進することが、キャリア教育の視点からも重要な役割を果たすものであると位置付けられています。各学校においては、子供の発達段階を意識しながら取り組むことが必要であるとともに、目標を明確にし、体験の効果をより引き出すための体験前の事前指導や事前学習、さらに体験後の事後指導を充実させる必要があります。

（４）キャリア教育における教育活動の評価・改善を行いましょ

学校におけるキャリア教育を充実させるには、日々の教育活動におけるキャリア教育の評価や改善の実施も推進方策として大切です。例えば、各学校において、キャリア教育に関する学習活動の過程・成果に関する情報を集積した学習ポートフォリオの作成や活用等も挙げられます。また、学校評価の結果を生かしながら、検証・改善を図る必要があります。

（５）教職員の意識・指導力の向上を図りましょ

学校の教育活動全体でキャリア教育を推進するには教職員のキャリア教育に対する意識や指導力の向上は不可欠であり、教職員一人一人が担当する教科・科目や教育活動の中で具体的に実践できる力を高めていくことが必要であり、そのためにも研修の充実が大切となってきます。

中でも、キャリア教育の全体計画・年間指導計画の作成や、計画に沿った教育活動を具体的に実践していくための指導方法等に関する研修、先進校の事例研究や評価・検証等について学ぶ場としての研修が必要となります。



2 発達段階に応じたキャリア教育

キャリア教育は、幼・小・中・高の各発達段階に応じて課題を系統的・体系的に推進していくことが必要です。

キャリア教育の推進に当たっては、次のような課題や推進ポイントがあります。

発達段階	発達段階における課題	推進ポイント
幼稚園 幼稚部 	人や社会とかかわる基盤形成の時期 ～身近な環境に主体的にかかわろうとする力の育成～ ○信頼関係のもとでの情緒の安定と自己発揮 ○人と「かかわる力」や自立心、望ましい習慣や態度の形成 ○日常生活に必要な言葉の獲得と伝え合う喜びの実感 ○豊かな感性や創造性、自己を表現する力の育ち	幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開できるようにすることを通して、人や社会と「かかわる力」の基盤形成を図る
小学校 小学部 	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期 ～夢や希望に向かって努力する能力・態度の育成～ ○自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ○身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ○夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ○勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成	日々の教育活動や職場見学等、地域とかかわる活動を通して、「働くこと」の意義や「自己の生き方について考えを深める」活動を推進する
中学校 中学部 	現実的探索と暫定的選択の時期 ～将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成～ ○肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ○興味・関心などに基づく勤労観・職業観の形成 ○進路計画の立案と暫定的選択 ○生き方や進路に関する現実的探索	社会における自らの役割や将来の生き方・働き方について考えさせるために、職場体験等の体験的な学習活動を通して、現実の社会を学ぶ活動を推進する
高等学校 高等部 	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期 ～自ら考え、未来を切り拓く能力・態度の育成～ ○自己理解の深化と自己受容 ○選択基準としての勤労観・職業観の確立 ○将来設計の立案と社会的移行の準備 ○進路の現実吟味と試行的参加	就業体験（インターンシップ）等の様々な体験的な学習活動を通して、社会・職業への現実的理解を深め、将来に向けての目標設定や社会に参画する意識を醸成する活動を推進する

（文部科学省「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引」（平成18年11月））及び（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日））をもとに作成

※特別支援学校では、上記の課題、推進ポイントに加え、個々の障がいに応じたきめ細かい指導・支援のもとで、適切なキャリア教育を行うことが必要です。

「キャリア教育で身に付けたい能力・態度」(例)

国の「基礎的・汎用的能力」に対応させた4つの柱

発達段階 身に付けたい力	幼稚園 幼稚園 幼児部		小学校 小学校 小学部 中学年		中学校 中学校 中学部		高等学校 高等学校 高等部
	低学年	高学年	進路の探索・選択にかかるとする能力・態度の育成	進路の探索・選択にかかるとする能力・態度の育成	現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期	
かかわる力	<p>挨拶や返事をす。 ○「ありがとう」や「ごめん」を言う。 ○先生や友達に親しみをもち、話をしたり話を聴いたりすることができる。</p>	<p>基本的な挨拶や返事を、お礼等が言える。 ○自分の考えをみんなの前で話す。 ○先生や友達の話をよく聴くことができる。</p>	<p>自分の意見や気持ちを持ち分けて、相手の立場から考え行動しようとする。 ○異年齢集団の活動に積極的に参加し、役割と責任を果たそうとする。</p>	<p>思いやりや礼儀の気持ちを持ち、相手の立場から考え行動しようとする。 ○異年齢集団の活動に積極的に参加し、役割と責任を果たそうとする。</p>	<p>現実的探索・選択にかかるとする能力・態度の育成</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>
	<p>自分の思ったことを伝える。 ○相手の思っていることに気が付く。 ○お世話になった人に感謝する。</p>	<p>自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 ○友達と仲良く遊び、お世話になった人に感謝し親切にする。</p>	<p>自分の長所や短所に気づき、自分らしさを発揮する。 ○話し合いなどに積極的に参加し自分と異なる意見も理解しようとする。</p>	<p>自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。 ○自分の言動が他者に及ぼす影響が分かり、実生活において配慮する。 ○自分の悩みを話せる人を持つ。</p>	<p>将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成</p>	<p>現実的探索と暫定的選択の時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>
みつめる力	<p>自分のことは自分で行おうとする。 ○生活や遊びの中で疑問を持つ。 ○学習等の計画を立てる。</p>	<p>自分の仕事に対して責任を感じる。 ○最後までやり遂げる。 ○自分の力で課題を解決しようとする。 ○計画づくりに必要な情報を探る。 ○学習等の計画を立てる。</p>	<p>生活や学習上の課題を見つけて、自分の力で解決しようとする。 ○将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。 ○自分に必要な情報を探る。 ○学習等の計画を立てる。</p>	<p>学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面を生かす。 ○よりよい生活や学習、進路や生き方等を指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ○課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 ○生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査、整理し活用する。</p>	<p>将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成</p>	<p>現実的探索と暫定的選択の時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>
	<p>身近で働く人々の様子に興味・関心を持つ。 ○家の手伝いを進んでする。 ○決められた時間をきまき守ろうとする。</p>	<p>家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 ○作業の準備や片付けをする。 ○身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。</p>	<p>日常生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ○仕事における役割の連続性や変化に気づく。 ○将来のことを考える大切さが分かる。 ○憧れとする職業を持ち、今しなければならぬことを考える。 ○身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。</p>	<p>日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ○様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自分の生き方を考える。 ○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業・仕事への関心や意欲を高める。 ○将来の進路計画に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。 ○産業・経済等の変化に伴う職業や仕事のの変化のあらましを理解する。</p>	<p>将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成</p>	<p>現実的探索と暫定的選択の時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>
考える力	<p>挨拶や返事をす。 ○「ありがとう」や「ごめん」を言う。 ○先生や友達に親しみをもち、話をしたり話を聴いたりすることができる。</p>	<p>基本的な挨拶や返事を、お礼等が言える。 ○自分の考えをみんなの前で話す。 ○先生や友達の話をよく聴くことができる。</p>	<p>思いやりや礼儀の気持ちを持ち、相手の立場から考え行動しようとする。 ○異年齢集団の活動に積極的に参加し、役割と責任を果たそうとする。</p>	<p>思いやりや礼儀の気持ちを持ち、相手の立場から考え行動しようとする。 ○異年齢集団の活動に積極的に参加し、役割と責任を果たそうとする。</p>	<p>将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成</p>	<p>現実的探索と暫定的選択の時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>
	<p>自分の思ったことを伝える。 ○相手の思っていることに気が付く。 ○お世話になった人に感謝する。</p>	<p>自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 ○友達と仲良く遊び、お世話になった人に感謝し親切にする。</p>	<p>自分の長所や短所に気づき、自分らしさを発揮する。 ○話し合いなどに積極的に参加し自分と異なる意見も理解しようとする。</p>	<p>自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。 ○自分の言動が他者に及ぼす影響が分かり、実生活において配慮する。 ○自分の悩みを話せる人を持つ。</p>	<p>将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成</p>	<p>現実的探索と暫定的選択の時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>
すすむ力	<p>自分のことは自分で行おうとする。 ○生活や遊びの中で疑問を持つ。 ○学習等の計画を立てる。</p>	<p>自分の仕事に対して責任を感じる。 ○最後までやり遂げる。 ○自分の力で課題を解決しようとする。 ○計画づくりに必要な情報を探る。 ○学習等の計画を立てる。</p>	<p>生活や学習上の課題を見つけて、自分の力で解決しようとする。 ○将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。 ○自分に必要な情報を探る。 ○学習等の計画を立てる。</p>	<p>学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面を生かす。 ○よりよい生活や学習、進路や生き方等を指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ○課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 ○生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査、整理し活用する。</p>	<p>将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成</p>	<p>現実的探索と暫定的選択の時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>
	<p>身近で働く人々の様子に興味・関心を持つ。 ○家の手伝いを進んでする。 ○決められた時間をきまき守ろうとする。</p>	<p>家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 ○作業の準備や片付けをする。 ○身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。</p>	<p>日常生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ○仕事における役割の連続性や変化に気づく。 ○将来のことを考える大切さが分かる。 ○憧れとする職業を持ち、今しなければならぬことを考える。 ○身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。</p>	<p>日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ○様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自分の生き方を考える。 ○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業・仕事への関心や意欲を高める。 ○将来の進路計画に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。 ○産業・経済等の変化に伴う職業や仕事のの変化のあらましを理解する。</p>	<p>将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成</p>	<p>現実的探索と暫定的選択の時期</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>

(国立教育政策研究所生涯指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」(平成14年11月))をもとに作成